

## 教育科目の展開

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、地域に密着して展開する様々な教育科目を、参加大学間の連携を深めながら実施していきます。この項

では、各大学で進められている先進的な教育科目を取り上げ、皆様の参加を求めています。

## 社会福祉実践演習

担当教員：東北文教大学短期大学部

横尾成美、南條正人、斎藤祐子

社会福祉実践演習では地域活動体験（在宅高齢者訪問活動・ぶんきょうサロン・福祉施設等におけるボランティア活動）を大学近隣の地域で行いました。

訪問させていただいたお宅では、現在一人暮らしをされていますが、離れて暮らす家族の協力があること等、お互いを思い合って生活していることがわかりました。また趣味の手芸やガーデニングなどを見させていただき、貴重な訪問の機会になりました。

高齢者の方をお招きし、おもてなしをする「ぶんきょうサロン」では、血圧測定などの健康チェック、訪問活動報告、講座、レクリエーション活動、昼食会、箏曲や合唱などの披露をし、訪問させていただいた事への感謝の気持ちを込めておもてなしをしました。

この活動体験を通して、高齢者一人ひとりが何らかのことで悩んでいたたり、困ったりして私にはその悩みを解決することはできませんが、解決に導く手助けはできると思うので、高齢者の声に耳を傾けていきたいと思いました。また、改めて介護福祉



士として高齢者の方々を支えていきたいと強く思うようになりました。

(執筆：東北文教大学短期大学部人間福祉学科 井澤真実子)

## 地域と協働する民間団体

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業は、県内大学・高専学生の皆さんが、地域と積極的に関わることを推進しています。その中で、学生の皆さん

との協働を歓迎する民間団体が多数存在します。ここでは、そうした県内 NPO などを紹介いたします。

平成 28 年 7 月から山形市八日町で『子ども食堂』を始めました。子どもの貧困対策というよりは、「子どもの居場所づくり」を目指し、1人の子どものより多くの大人が関わる場にしたいと考えています。

当初より高校生や大学生にも関わって欲しいと思っていたところ、山形大学 COC+ 事業の取り組みを知りお声がけさせて頂きました。

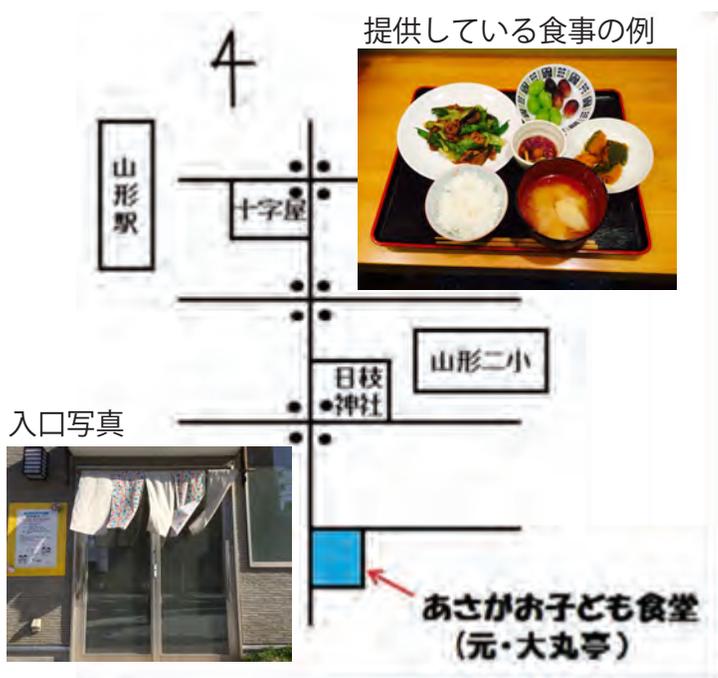
10 月中旬から毎週 2～3 人の学生さんが参加して下さいます。先日はテスト前だという女子高生が、熱心に数学を教えてもらっていました。その隣の部屋では、小学生の男の子が学生さんとオセロをして遊んでいました。

普段は接点のない世代を繋ぎ、地域の輪を広げるお手伝いをしたいと考えています。

連絡先 ボランティア団体つなぐ

TEL：090-7930-9811(白壁)

E-mail：asagaokodomo@gmail.com



# やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

## 協働人材育成部会（村山地域）& 普通科高等学校におけるキャリア教育事業

10月1日（土）と15日（土）の2回にかけて、山形大学生と県内高校生の協働事業を実施しました。両日とも、はじめに大学生から大学についての説明があり、高校生の側が質問をおこない、その後、

大学での学びや生活等について様々な情報交換を行いました。以下、大学生による事業紹介と高校生による記事・感想を紹介します。高大連携事業は引き続き実施する予定です。



### 10月1日（土）

#### 参加者リスト

大学生：関祐太郎・高橋幹佳・羽田美香・松田智宏（山形大学）

高校生：菊地瑠花・鈴木瑠莉・横尾桃華（山形西高等学校）、佐々木祐志（上山明新館高等学校）、嵐田ももか・笹木千聖・鈴木麗（米沢東高等学校）

大学生の活動の一つに、山形に数多くある空き家を利用し「Agasuke House」というゲストハウスにリノベーションするプロジェクトがあります。「Agasuke」は、「かっこつけ」「お調子者」という意味の裏返しで「情熱的」「クレイジー」という意味です。海外や県外から訪れた人達との交流を通して、魅力あふれる山形を発信し、たくさんの人との出会いを大切にするを一番の目的として活動しています。「Agasuke House」が家族のような絆が生まれる場となり、山形と外とを結ぶ架け橋になることを私は応援したいです。

（執筆：山形西高等学校1年 菊地瑠花）

山形大学では、富士通と連携して、使われていない特許を活用した商品開発を進めているそうです。学生同士が授業の中で身近な問題を出し合い、いくつかの特許の中から結びつけ、その特許を用いた商品で解決しようという取り組みです。今回の山大学生との交流を通して、大学でも商品開発が可能なることを知り、大変驚きました。「こんな山形だったらいいな」という理想を実現できるのが大学の魅力だと感じました。私も何か、山形を活気づけられるような活動にこれから参加していこうと思います。

（執筆：山形西高等学校1年 鈴木瑠莉）

山形大学では、留学する人がたくさんいます。アメリカ、イギリス、韓国、中国など、約30か国の国々の大学に留学します。滞在する期間は、人によ

って様々です。語学留学の場合、一年くらいだそうです。留学する魅力は、海外の人と日本人はものの見方や積極性、生活スタイルや文化などが違うので、新たな意見をしたり、自分の視野を広げることができることです。現地の人々とふれあう中で積んだ経験は、将来、必ずどこかで役に立つと思います。

（執筆：山形西高等学校1年 横尾桃華）

山形大学の中で自分の興味のあるサークル活動は「将棋」である。自分は今高校で将棋部に入っていて、高校1年生の時に将棋を始めた。将棋は頭をよく使い、戦術も多数あるので頭脳戦をやりたい人にはもってこいの頭脳格闘技である。将棋の面白さについて若い人達にもっと浸透させるために、サークル内で将棋の知名度を上げて、その発信場所を山形大学とし、山形大学の知名度をもっと上げていきたい。

（執筆：上山明新館高等学校2年 佐々木祐志）

教育学についていくつか教えていただきました。分かったことが二つあります。一つ目は、教育の専門的な学びだけでなく人と関わるために必要な人間心理などについても学んでいるということです。二つ目は、教育実習の裏側で大学生の方がよりよい授業にするためにたくさんの時間と能力を使って準備しているということです。改めて教員になる大変さなどを感じたと同時に、地元山形で教員になるために山形に貢献したいと思いました。

（執筆：米沢東高等学校2年 嵐田ももか）

# やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

講義やバイト、サークル等の忙しい日々の中でも自分の好きな分野を深く学ぶこと、趣味に熱中する時間が多くあること、大学生は毎日充実して過ごしていることが伝わってきました。吹奏楽団はキャンパスごとに存在することや、声楽・オーケストラなど音楽系統だけでもサークル数は豊富にありました。また、東北四大祭りとして有名な花笠のサークルもあるなど、その地域の風土に合わせたサークルが存在するのも魅力の一つだと感じます。  
(執筆：米沢東高等学校2年 笹木千聖)

大学生は高校生と比べて、勉強が難しく大変、というイメージでした。でもお話を聞くと、高校生の時よりも自由な時間が増えるので、サークル活動やアルバイトなど今までできなかったことにも時間を使えることが分かりました。飲食店や家庭教師など人によって様々なアルバイトをしていることを聞きました。今から勉強はもちろん、コミュニケーション能力を身につけることを頑張っていきたいです。  
(執筆：米沢東高等学校2年 鈴木麗)

私たちが高校生に伝えたかったことは、「自分の可能性は無限大であると信じること」です。私は大学に入り、様々な先輩や留学生と出会うことで海外や国際交流に興味を持ちました。大学では国際交流のサークルに入って留学生と交流し、長期休みには、ひとりで海外旅行に行くことが増えました。小さなきっかけに常にワクワクして取り組んできたことが、今の自分に結びついていると感じます。普段交流することのない県内の高校生と交流するということで、最初は不安もありましたが、高校生が目を輝かせて私たちの話を聞いてくれたので、私たちも真剣に受け答えることができました。さらに、自分自身の大学生活を発表したことで、自分の大学生活を振り返ることができ、今後の大学生活をより有意義なものにしていきたいと強く感じました。長いようであつという間な大学生活をどう過ごすべきなのか、私ももう一度深く考えるべきだと思いました。熱心に話を聞いてくれた高校生、ありがとうございました。みなさんの活躍を楽しみにしています！  
(執筆：山形大学人文学部2年 羽田春香)

## 10月15日(土)

### 参加者リスト

大学生：北村真菜・佐藤光・澤木美香・角田友萌華・吉田小春(山形大学)

高校生：井上優(南陽高等学校)、阿部なる美・栗本梓(酒田西高等学校)

進路についてお聞きしたことを皆さんが考えてくださって、具体的なことについてお聞きすることが出来ました。大学入試については、数学は同じ問題を何回も解くこと、英語は単語を覚えることが特に大切だとうかがいましたので、今から頑張っていこうと思いました。面接については、大学に入りたい理由だけでなく、入ってどうなりたいかなども大切だと教えてもらいました。そこで、面接のときに限らず、自分の意志を持つことが大切だと思いました。  
(執筆：南陽高等学校2年 井上優)

大学での生活、授業の受け方、成績評価など、高校までとは大違いで自分から進んで学習することが大事だと学びました。また、これから必要な知識のみを学ぶのではなく、実際にボランティア活動や学校での企画などの活動が多くて驚きました。私は町づくりに興味があるのですが、詳しく説明していただき、とてもためになりました。今日の活動で、より大学について知ることができて、さらに受験のために大事なことも分かって安心感が高まりました。  
(執筆：酒田西高等学校1年 阿部なる美)

私は普段の学習方法や生活の仕方などの時間の使い方を考えることが出来ました。部活が忙しい、勉強は難しいで生活が目まぐるしく回る中で、大学生のみなさんがどのようにして合格したかなどの具体的なお話が聞けてたくさん真似してみたいことが

ありました。今後の生活の中では、今回の活動を思い出してしっかりと勉強や部活など、今のうちにできることをしていきたいと思います。山形大学のオープンキャンパスだけでは分からない大学の魅力や、大学生の生活、お金に関するシビアな部分を知ることができて、今回の活動に参加できて良かったです。  
(執筆：酒田西高等学校1年 栗本梓)

今回の協働事業の参加者は、三人の高校生と五人の大学生の計八人です。午前中は高校生が大学受験に対して持っている疑問、高校生活での悩みなどを一緒に考えました。大学生には無い考え方や、大学生しか分からないことなどを話し合い、とても有意義な時間になりました。午後からは大学生から大学生活について紹介しました。授業や時間割、一人暮らしについて色々伝えることが出来ました。少しでも参考になればうれしいです。高校生と交流する機会はなかなか無いため、今回の事業で高校生が抱えている不安や疑問などを間近で知ることが出来ました。普段、目上の方のお話を聞くことが多い中で、自分より年下の子達の考えは新鮮でした。そして、山形大学の魅力を伝えることが直接できて良かったです。これから高校生の皆さんは大学受験に近づいていきますが、自分のやりたいことを追求し、後悔のない進路選択をしてほしいです。頑張ってください。  
(執筆：山形大学人文学部1年 澤木美香)

# やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

## いま活躍中の COC+ 大学生

高橋幹佳（平成 26 年 山形大学理学部入学）

Q. 出身は？

山形県東根市の出身です。中学校は東根市立第 2 中学校、高校は日本大学山形高等学校でした。バスケットに熱中していました。

Q. なぜ山形大学に進学したのですか？

小学校の頃から算数・数学が好きで、数学の勉強をしたいと思ってました。お金の問題もあって、近くの山形大学を選んだのですが、数学ができる、以外の理由はとくにありませんでした。当時は大学でどんなことができるか、ということが分かっていませんでした。



Agasuke House のクラウドファンディング募集ウェブサイトより転載。資金は無事に集まった。

Q. 山形大学に入ってみてどうですか？

偶然かかわった「エリアキャンパスもがみ」など、学生が主体になって関わる授業が楽しくって毎年スタッフとしても参加しています。内閣府の事業などで国際交流にも挑戦してきました。その時の友人は一生の財産になると思います。

Q. Agasuke House について

友人二人と一緒に始めたプロジェクトです。いま山形でも増加して問題になっている空家をリノベーションして、外国の人などが利用できるゲストハウスにしよう準備しています。先日、クラウドファンディング（特定多数による財源提供のこと）に成功しました。

Q. 活動を始めたきっかけ

エリアキャンパスもがみでは地域の大人、国際交流では外国人との交流を行ってきました。そのおかげで、世界が広がりました。今、自分がいる世界をもっと知りたいと思うようになりました。その延長上に今の活動があります。学科やサークルの中だけで友人関係が閉じこもってしまうと、アクティブになることは厳しいと思います。ふだん繋がりのない人と接点を持つことが大事だと思っています。

Q. 将来の目標

山形で高校の教員になることです。そして山形に貢献する人材になりたいです。

## 記事執筆者の募集

季報「やまがた創生便り」は、学生目線で地方創生・人材育成を考え、情報発信するために発行しています。県内大学・高専の学生の皆さん、県内大学・高専への進学を考えている小中高生の皆さんによる記事執筆を広く募集します。また地域の方で、いまの

若い人たちにぜひ自分たちの地方創生・人材育成に向けた取り組みについて発信したいという地域の皆様の声も掲載したいと考えております。関心のあるかたは、ぜひ以下の連絡先まで気軽にご一報ください。

## 事業の連絡先

山形大学 COC/COC+ 推進室  
東北公益文科大学庄内オフィス  
東北芸術工科大学法人企画室  
米沢栄養大学総務企画課  
東北文教大学運営企画室  
鶴岡工業高等専門学校総務課  
※☎を@に変換してください

電話 023-695-6263/6264  
電話 0234-41-1115  
電話 023-627-2089  
電話 0238-22-7330  
電話 023-688-2298  
電話 0235-25-9453

E-mail: cocuisine☎jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
E-mail: coc-office☎koeki-u.ac.jp  
E-mail: c\_o\_c☎aga.tuad.ac.jp  
E-mail: jimuy☎yone.ac.jp  
E-mail: m\_mihara☎t-bunkyo.ac.jp  
E-mail: kikaku☎tsuruoka-nct.ac.jp